

2024年 能登半島地震の被害報告 —時国家住宅被害要因の分析—

落合努 氏

日本常民文化研究所 所員
建築学部 特別助教

申込み後、IDと
パスコードが自
動返信メールに
て送信されます。



参加自由

日時：2026年2月18日(水)17:00～18:30 【開場：16:30】

会場：横浜キャンパス9号館12室 + Zoomミーティング

主催：神奈川大学日本常民文化研究所

要旨

2024年能登半島地震は、最大震度7を観測した地震であり、大規模な地盤隆起や広範囲での液状化被害、水道施設などライフライン復旧の長期化などが特徴的であった。また、被災の中心である奥能登地域は、伝統的な文化が受け継がれている地域でもあり、文化財等の被災も顕著であった。本講演では、最初に能登半島地震の被害の特徴を概説する。また、合わせて近接していながら被害の程度が大きく異なった、上時国家住宅と時國家住宅についての検討結果の概要を報告する。



上時国家住宅（2024年3月20日、筆者撮影）



時國家住宅（2024年3月20日、筆者撮影）